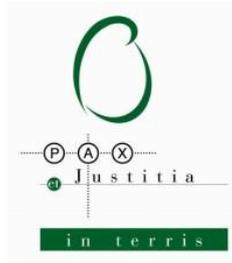


CATHOLIC DIOCESE OF NAGOYA
2-6-35 AOI HIGASHI-KU
NAGOYA, 461-0004 JAPAN
TEL :81-52-935-2223
FAX :81-52-935-2254
EMAIL:curia@nagoya.catholic.jp



カトリック名古屋教区
461-0004 名古屋市東区葵 2-6-35
電話 : 052-935-2223
ファックス : 052-935-2254
Eメール: curia@nagoya.catholic.jp

2020年3月16日

教区の皆さま

新型コロナウイルス対策（４）、及びそれに伴う行事について

教区司教 松浦悟郎

＋主の平和

新型コロナウイルスに関する第四次お知らせをします。先日、教区として3月8日と15日の二回の主日ミサを中止にするという決定をしました。この中止に当たって、いくつかの小教区では司祭たちがミサをyoutubeで配信したり、日曜日の一定時間に聖体顕示をしたり、別の機会に信徒とともに祈る機会をもつなど、また、各家庭でも普段あまりやってこなかった家族で祈る機会を持たせたなどの声もあり、いろいろな工夫をして下さったようでうれしく思います。

さて、今後の対応についてですが、教区として臨時の顧問会を開き、以下のように決定しましたのでお知らせします。

1. 3月22日と29日の主日ミサは中止とします。

- * 平日のミサは、以前の方針と同じように、小規模の場合、通常通り行ってください。平日のミサでは大勢が集まることがないので、むしろ、分散して参加できるからです。司祭たちは、夜も含めてできるだけ平日のミサを行い、信徒たちがミサにあずかれる機会を増やすようにお願いします。ただし、以前の通達と同じように、状況によっては主任司祭の判断で中止することもできます。
- * 主日にはできるだけ聖堂を開けておき、例えば、一定時間、祭壇にろうそくを灯すなどして、信徒が自由に祈ることができるような工夫をしてください。
- * 葬儀、結婚式、その他、どうしても必要なミサなどは、十分な感染対策をとった上で慎重に行ってください。

2. 4月からは、通常の状態に戻していきます。

現在、学校をはじめ、さまざまな場での自粛が行われているのは、感染の広がりを抑えピークを遅くするための対策として要請されたものです。このことによって感染者をゼロにするということではなく、医療崩壊を起こさないことや薬を含めた対策を進めていくためでした。その意味では、緊急措置の期間をずっと続けるのではなく、慎重さとさまざまな配慮をしながらも、徐々に通常の生活に戻していくこととなります。そのためには、一律のやり方ではなく、それぞれの現場の状況に合わせた対策や配慮が必要となってきます。

そこで、各小教区では3月中に小教区評議会を開き、4月からの主日ミサや活動のあり方を検討して下さい。評議会を開催できない場合は、信徒代表や役員、信徒と共に検討して下さい。

ミサの中では、すでに提案した以下の方法や独自の工夫をしていただけたらと思います。

- ① 暖房が不要となる季節になるので、できるだけ窓を開けて換気を良くしましょう。
- ② これまで通り教会では、手洗い、咳エチケットに配慮し、舌での拝領を避けて下さい。特に司祭、奉仕者はミサの前に手洗いを徹底して下さい。
- ③ パンとぶどう酒の奉納はせずに、あらかじめ祭壇に準備するようにします。
- ④ 4月5日（受難の主日）のミサでは聖歌を歌わずに静かに唱えるなど、状況に合わせて工夫してください。復活徹夜祭からは、配慮しながらも聖歌を歌うことも含めた「喜びを表す典礼」を考えていただければと思います。
- ⑤ 体調のすぐれない方、特に高齢の方で心配な方は、引き続き主日ミサのつとめを免除します。 自宅で心を合わせてお祈り下さい。
- ⑥ 例えば、4月以降のある一定期間、逆に主日のミサを増やし、信徒の参加を分散するなどのことも考えられるでしょう。

3. 4月8日（水）の聖香油ミサは予定通り行います。その中で、叙階、誓願の金銀祝を行います。

延期していた金銀祝のミサは、聖香油ミサの中で行います。毎年、聖香油ミサの中で司祭の約束の更新をしますが、その場で叙階、あるいは誓願の金銀祝を祝い、新たな歩みを誓うことはふさわしい機会と言えます。

ただ、この日は平日でもあり信徒が参加しにくいことはありますので、それぞれの共同体でも金銀祝を祝っていただければと思います。

なお、金銀祝の祝いはミサの中で行い、ミサ後のパーティーはありません。

聖香油ミサ 日時 4月8日（水）午前10時半

場所 名古屋カテドラル大聖堂（布池教会）

* ミサ後、司祭、助祭の方はヨゼフ館で昼食があります。

最後に

今回の決定で、主日のミサが4回にわたって中止となりました。私たちがこれまであまり経験しなかった事態ですが、この機会をぜひ私たちの信仰のあり方、人としての生き方、社会のあり方などを見直し深める機会にできればと思います。今まで、“当たり前”と思っていたことが崩れていったとき、私たちはどのような心理状態になり行動するのでしょうか。何が見えてきたのでしょうか。いつか、今回の体験で気づいたことを分かち合いたいと思います。

国内外を問わず、新型コロナウイルスに感染した人たちのため、また、さまざまな対策によってかえって生活困窮の中にある人たち、いろいろな意味で命の危機にある人たちのために心から祈りたいと思います。

祈りのうちに